１．平成15年度の研究

１）研究主題(第11次)

「情報化社会を主体的に生きる力を育てるために，
視聴覚教育の果たす役割を追究し，その実践をひろげよう」

２）研究主題設定の理由

今，子どもたちに「生きる力」を育成することが求められている。予測しきれない将来を生きるために，子どもたちは，自分を見つめ，生き方を自らの力で決定していくことがより強く必要とされる。自らの生き方を決定するプロセスの一つには，自分の考えと，他者の持っている情報とを比較検討しながら，判断していくという行動がある。人と関わることを通して共感し互いに認め合うことは，自らがよりよく生きるための大切な行動である。情報化社会が高度化していることから，今後，人と関わりながら，得た情報を活用する機会が一層多くなることが予想される。

情報を活用するためには，基礎となる情報手段の特性を理解し，必要な情報を選択し，有用なものにする能力を身につけておくことが求められる。視聴覚教材・機器・情報手段を多く用いている点で，視聴覚教育の果たす役割が大きい。そこで，本研究会では「情報化社会を主体的に生きる力を育てるために，視聴覚教育の果たす役割を追究し，その実践をひろげよう」を研究主題とした。

社会の変化に主体的に対応できる資質や能力を高めるためには，自らが課題をつかんで問題に取り組み，評価するという問題解決的な学習を進める力を身につけておくことが必要である。学校において，情報化社会を主体的に生きる力を育てるためには，基礎的・基本的な学習の充実をもとに，学習者自身が問題を見つけ，よりよく問題を解決していこうとする態度や能力を身につけていく学習を併せ行っていく必要がある。学んだ知識（内容知）は時間とともに変化するが，学習への態度や問題を解決していくための能力（方法知）は，未知の課題に対しても柔軟に対応できうる力となるからである。

未知の課題に対して柔軟に対応するためには，人との関わりのなかで，様々な情報から必要なものを判断し，活用する力を身につけることが必要となる。情報化が進む今日の社会において，めざましい発展を遂げつつある視聴覚教材・機器・情報手段は，人と関わりながら多くの情報を取り込んだり，整理したりする機会を得るために，欠かせない道具となってきた。そこで，本研究会は，子どもが将来，問題解決的な学習の流れで視聴覚教材・機器・情報手段を用いて自ら問題を解決する力を身につけることをめざして，その指導方法を実践を通して追究することとした。

3）研究構想図

情報化社会と子ども

○情報手段の発達
○物的に満たされた環境
○多様化した課題

望まれる子ども像

○学ぶための基礎が備わっている子ども
○必要な情報を自ら選び，活用する子ども
○互いに認め合い，自己を高める子ども

研究主題（第11次）

情報化社会を主体的に生きる力を育てるために，
視聴覚教育の果たす役割を追究し，その実践をひろげよう

研究のねらい

1.情報化社会を生きる力を育てるために実践的研究を進める。
2.視聴覚教材・機器・情報手段を主体的に活用して学習する子どもを育てるために実践研究を進める。
3.視聴覚教材・機器・情報手段を活用して，指導方法を工夫・改善するために実践研究を進める。

視聴覚教材,機器,情報手段
＜主に教師が操作する場合＞
・映画，スライド，OHP，ビデオ，TV,CD-ROM，DVD-ROM，インターネット等による教材の提示，
など

＜主に児童が操作する場合＞
・ビデオ，TV，チュートリアルソフト，ドリルソフト等の教材を活用した個別学習
など

都小視研がとらえた
視聴覚教育の果たす役割

問題解決能力の育成
基礎的・基本的学力の育成

視聴覚教材,機器,情報手段
＜主に児童が操作する場合＞
･図鑑,ビデオ,TV,ウェブサイト等の資料を活用した調べ活動
･手紙，電話，FAX，録音機材，カメラ，ビデオ，Eメール等を活用した取材活動
･録音機材，カメラ，ビデオ，プレゼンソフト等を活用した記録や発表
･手紙,電話,FAX,Eメール,電子掲示板等を活用した意見交換
など

情報化社会を主体的に生きる力

○必要な情報を主体的に選択し，活用する能力
○情報活用の基礎となる，情報手段の特性の理解
○情報活用を通し，共感し互いに認め合うことができる能力

＜表：問題解決過程と視聴覚教材・機器・情報手段＞

学習段階 ＼ 問題解決過程と育成したい能力			初期段階 体験や経験を重ねる	中期段階 具体的な方法を身につける	後期段階 適切な方法を選び，活用する	使用が予想される 視聴覚教材 機器 情報手段
つかむ	問題をつかむ	・問題を明確にできる能力				・図書，新聞等 ・ビデオ映像 ・ウェブページ ・ウェブマップ
とりくむ	解決策を模索し，問題にとりくむ	・問題の解決策を予測し，手順を決める能力 ・解決策の実行中にその活動と目標とのずれを点検する能力				・図書，新聞等 ・ビデオ映像 ・ウェブページ ・手紙，FAX ・電話 ・Ｅメール ・電子掲示板 ・カメラ，録音機 ・プレゼンソフト
ふりかえる	児童が問題解決過程を評価する	・活動結果が目標に近づいているかを評価する能力				・壁新聞 ・ポスター ・プレゼンソフト ・ウェブページ ・Ｅメール ・電子掲示板

問題解決過程を「つかむ」「とりくむ」「ふりかえる」といった三つの過程に分け，活動のねらいのもとで，どのような情報手段が使われたかを明確にするようにした。さらに，子どもの学習経験を段階に分け，それぞれの過程における指導の重点を明確にした。発達段階（低・中・高学年）による分け方もあるが，検証する学校によって情報手段の取り扱い方が異なるため，学習経験を基準とした。

※基礎的・基本的学力の形成過程については，平成15年度の課題とする。

4）研究の評価

単元終了後に学習の過程を見直すため，下記の表にまとめ成果と課題を明らかにする。

単元名		
学年・教科・時間数		
教科のねらい		
視聴覚教育のねらい		
過程	つかむ	それぞれの過程について，「ねらい」「方法」を明確にする 活動を再現する（写真，授業記録，制作物）
	とりくむ	
	ふりかえる	
実践の評価		学習プランについて吟味する 情報手段・視聴覚教材・教育機器の使用方法を吟味する

5）研究推進委員会組織

理論構成部	研究主題に基づいた実践を心がけ，日々進化していく情報機器や，その機能について研修を重ねる。また，研究主題の重点について原案提出，全体研修会の企画運営，授業研究会における研究協議会を担当する。	
授業構成部	研究構想図に基づき，授業実践を通した活動を進めながら，活動計画の立て方，有効な機器利用等を明らかにしていく。年間５回の授業研究会を進めていく。	**映像研究部** 映像について認識を深め，児童も教師も授業の中でよりよく活用できるよう，実践を重ね研究を進めていく。
		メディア研究部 情報機器の特性を生かし，学習のねらいに応じた活用方法について，実践を通して研究を進めていく。